生涯スポーツを志向する体育授業の創造
－　文化としての「みるスポーツ」に着目して　－

学籍番号　209354
氏　　名　土屋　雄大
主指導教員　井上　功一

１．はじめに

1.1 研究背景と目的

2017年告示中学校学習指導要領では，「運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する」ことが改訂の要点の一つとして挙げられており，これまでの「する」に加えて「みる・支える・知る」といった多様な観点から運動やスポーツを捉え、体育の授業を構想・実践していく必要がある．特に「みるスポーツ」に関しては，メディアの発達によって世界中の様々な競技を誰でも，いつでも，また，どこにいても観戦することが可能となっており，体力や技能の程度，年齢や性別及び障害の有無にかかわらずすべての人がスポーツの価値を享受するためのきっかけとして最も距離の近いスポーツ文化になりつつあると言えるだろう．

生涯スポーツを志向する学校体育だからこそ，スポーツを「みる」こと自体の面白さや魅力を体感することを通して，生涯にわたって「みるスポーツ」に参画する素地を養う必要があると考える．そのためには学校体育において「みるスポーツ」をどのように位置づけ，どのように展開していくのかが重要になる．本研究において「みるスポーツ」を中心に据えた授業実践を実施し，「みるスポーツ」における指導内容や授業構成，系統性の検討を行うとともに，生涯スポーツを志向する学校体育の在り方について検討することを目的とする．

1.2 学校体育における「みるスポーツ」の取り扱い

近年，国際的なスポーツイベントを中心として社会における「みるスポーツ」への関心が高まる一方，教育現場においては，坂本が指摘するように「するスポーツ」に偏重した体育授業実践が展開されている．この背景として，学校現場において，スポーツを「みる」ことがスポーツを「する」際の補助という手段的な役割として扱われてきた点が挙げられるだろう．しかしながら，人々が日常において「みるスポーツ」に親しむ際，常にスポーツを「する」ことを意識しているわけではない．「生涯スポーツ」を志向する学校体育において「みるスポーツ」を取り扱う上では，「するスポーツ」に付随する手段的なものではなく，みることそのものを楽しむといった「みるスポーツ」そのものに独立した価値を見出す視点が求められると考える．

２．研究方法

生涯にわたって「みるスポーツ」に参画する素地を養うことを目標に，スポーツを「みる力」(斎藤,2016) 及び「みるスポーツ」の価値意識(本間ら,2017)に着目し，生徒の観戦意欲の向上及び観戦への興味喚起をねらいとした授業を実施することとした．中学校体育科の授業を 2 単元

実施し，その前後における子どもの観戦意欲及びスポーツ価値意識を比較･分析した．また，授業内での活動の様子や学習カードへの記述内容から，実践前後の子どもの様子を比較した．

３．授業実践

3.1 授業実践の概要

従来のスポーツをすることを基盤とする「みるスポーツ」ではなく，スポーツをみることそのものに熱中し楽しむことをねらいとして，単元の中で意図的な観戦場面を設けることでスポーツを「みる」ことを独立した活動として取り扱うこととした．

3.2 授業実践と振り返り及び生徒の反応

(1) 実施単元：「体育理論」(運動やスポーツの多様性)

スポーツを「みる力」について，日常生活の中に存在するスポーツ観戦行動に結び付けながら学習を行った．授業振り返りにおいて，今後の観戦行動を示唆するような記述が多数見られた．また観戦場面においては，得点が入ると立ち上がって喜んだり素晴らしいプレーに対して称賛を送るなどスポーツ観戦に熱中する様子が観察できた．

(2) 実施単元：「球技」(サッカー)

スポーツを「みる」ことを純粋に楽しむなど，スポーツを「みる」ことそのもの価値を体感することを目標として授業内容を構成した．また，事前調査において価値の認識が比較的低い程度に留まった「社交・代理達成・逃避」因子に対する価値意識の向上をねらいとして授業手法の工夫を行った．振り返りにおいて「試合の１プレーごとに熱中して見ることができ楽しかった」などの記述が多数見られたことに加え，観戦場面において，自然と立ち上がり拍手をしながら応援する様子が見られるなど，スポーツ観戦への熱中体験を提供することができた．

3.4 結果及び考察

授業実践を通して，観戦意欲及び「社交」「代理達成」「逃避」因子に対する価値意識が有意に向上する結果となった．このことから，生徒の観戦意欲や「みるスポーツ」価値意識の向上に対して，意図的な観戦機会を設けた体育の授業実践が有効である可能性が示唆された．

４．まとめ

本研究の授業実践を通して，観戦意欲及び「みるスポーツ」価値意識の向上が見られたことは，生徒が日常生活において「みるスポーツ」に参画する可能性が向上したことを示している．つまり，従来の「するスポーツ」に偏重する体育授業ではなく，スポーツを「みる」ことそのものに価値を見出す視点から「みるスポーツ」を取り扱う体育授業を通して，生涯にわたって日常的にスポーツに参画するための素地を養うことができたと言えるのではないだろうか．この点から，「生涯スポーツの実現」目標とする体育授業において「みるスポーツ」を中心に据えた授業を展開することの意義を示すことができたと考える．本研究が学校体育で「みるスポーツ」を取り扱う上での一助となることを期待するとともに，本研究をさらに継続・発展させ「生涯スポーツを志向する学校体育」の在り方について検討を進めていきたいと考える．